

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2375601370
法人名	有限会社 ライフサポート・タカラ
事業所名	グループホーム七宝
訪問調査日	平成19年12月 4日
評価確定日	平成20年 1月29日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2375601370
法人名	有限会社 ライフサポート・タカラ
事業所名	グループホーム七宝
所在地	愛知県海部郡七宝町大字下田字江西66番地2 052-443-5501
評価機関名	愛知県社会福祉協議会
所在地	名古屋市中区丸の内2丁目4番7号
訪問調査日	平成 19年 12月 4日

【情報提供票より】 (19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建て	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	実費 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (11月1日)

利用者人数	16名	男性	2名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	7名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 83歳	最低	69歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立尾陽病院、井田歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲に農地が多く、静かで穏やかな生活環境にあるホームである。母体法人は医療法人で、定期的な医師の検診や栄養士との連携など健康管理において十分な支援ができる体制がある。日ごろからきめ細やかな観察力を待ち「表面でなく心で接する」というホームの方針は、身体機能の低下を活かす取り組みに反映されている。更に、入居者の「希望の表出」や「外出の支援」を個別に対応する試みとして、定期的に職員と入居者が1対1で外出する機会作りも行われている。常勤や非常勤を問わず、介護に情熱を持って取り組み、より高いレベルの資格所得を目指す職員が多く、今後のホームの更なる質向上が期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。また外部評価の結果を改善に向けて取り組んでいる。また、職員の年間目標達成票へも反映させ、改善目標を達成するよう努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者だけでなく自己評価ではなく、今年はスタッフにも自己評価をしてもらい、外部評価を実施する意義を理解し活かすよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	構成メンバーは入居者家族や地域代表、地域包括支援センター及びグループホーム職員で2ヶ月に1回実施しており、議事録もある。取り組みとしてグループホームの入居者の高齢化に対し、ホームとして対応や防災対策の確認などの意識付けが検討されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月家族に入居者の近況報告をホームから郵送して知らせている。また、金銭管理は出納伝票に記入し報告している。意見箱の設置や運営推進会議へ入居者家族の代表が参加し意見を聞いている。また、日々の面会時や電話などで話を聞いている。家族から高齢化による入居者の身体機能低下への配慮や支援についての意見があり検討しており、話し合いの結果、手すりの設置へとサービスに反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	周囲に農地が多く地域との連携は今後の課題である。運営推進会議を通じ、地域行事への参加について母体法人にも働きかけて検討が期待される。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう「楽しく、のんびりとご自宅に近い暮らしとケア」「信頼を育み支えあう暮らしとケア」「生き生きと、張り合い・生きがいが保てる暮らしとケア」などを事業所理念の柱にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	声かけや態度などの日々のサービス提供場面において、管理者と職員は理念を共有し、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通じて地域活動の情報を集め、交流への取り組みを図っている。また近所を散歩する方々に声かけし、日常的な付き合いができるように努めている。	○	母体法人にも働きかけ、地域の一員として自治会や老人会、行事、地域活動に参加し、地域の方との交流が望まれる。また、入居者は住所を移しているため敬老会にも入れるよう役場にも働きかけが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。また外部評価の結果を改善に向けて取り組んでいる。また、職員の年間目標達成票へも反映させ、改善目標を達成するよう努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは入居者家族や地域住民代表、地域包括支援センター及びグループホームの職員であり、運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。会議を通じてメンバー間で入居者の高齢化による介護への対応について意見を出し合いサービスの質の向上に努めている。	○	市町村職員の参加を働きかけていくなどの取り組みが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が、介護保険証の更新手続きなどの際に入居者と一緒に役場を訪問し、市職員と交流する機会を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームから入居者の家族へ利用状況や近況報告と会計報告を郵送で伝えている。また、個々に合わせて面会時や電話を通じて報告している。職員の異動などについては家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議へ入居者家族の代表が参加し意見を聞いている。また、日々の面会時や電話などで話を聞いている。家族から高齢化による入居者の身体機能低下への配慮や支援についての意見があり検討しており、話し合いの結果、手すりの設置へとサービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員による介護を心がけている。やむを得ない異動や離職の場合は、その時期や引継ぎの面で配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加を出勤扱いとして、積極的に支援している。また、法人内の研修も年に4回あり、随時参加している。また、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人による勉強会や母体が同じグループホーム、他施設のグループホームとの意見交換会に2～3ヶ月に1回交代で参加している。	○	今後も交流する機会を持ち、さらなるネットワークづくりや勉強会、相互訪問などの活動を通じてサービスの質向上を目指した取り組みが期待される。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	関連施設の相談員からサービス利用についての説明や、ホーム見学を行い、本人が安心して納得した上でサービスが利用できるよう取り組んでいる。	○	今後はさらに本人が安心して、納得した上でサービスが利用できるように体験入所などの取り組みの検討が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活の中で外出したり、遊んだり、家事を一緒に行うなど喜怒哀楽を共にしており、本人から学んだり支えあう関係に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	検討会で話し合ったり、家族から聞いたり、生活の中で本人とコミュニケーションを図りながら、思いや意向の把握に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族に日ごろのかかわりの中で思いや意見を聞き、職員全員の意見を取り入れ入居者本位の介護計画に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況や効果などを評価するとともに、職員が記録する入居者の状態変化や家族、本人の要望に応じてほぼ毎月の見直しを実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連施設の医療連携体制を活かし、入居者の負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置をうけながらの生活の継続などができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などの希望を大切にしており、かかりつけ医の受診支援はできている。また、母体病院との連携もできており、毎週1回往診により健康管理をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期についてできるだけ早い時期に本人や家族、かかりつけ医と相談し、話し合いを持ち全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損なわない対応に取り組んでいる。また、不要な書類や個人名記載してあるものはシュレッターにて処理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	法人やグループホームの年間行事があり、入居者に聞き、意見を取り入れて支援している。日常生活においては個々の生活スタイルにあわせ援助している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを入居者と考え、共に協力しながら調理や盛り付け、片づけをしている。職員と入居者は同じテーブルを囲んで調理過程について楽しく会話が弾み食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2ユニットを交互に利用し、入居者の希望があれば毎日でも入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野を活かし1人ひとりの力を発揮してもらえるように玄関周りに花を飾ってもらったり、籠作りをしてもらったりとお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に本人の希望で個々に喫茶店に行ったり、買い物に出かけたりと外出の機会があれば声がけし、戸外に出かけている。また、年4回の外出計画や法人内の運動会、夏祭りなどがあり外出の機会が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員は理解しており、日中は鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。	○	今後は自治会の消防訓練に参加し、地域の協力体制について運営推進会議などで検討が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理について食事毎のカロリーについて把握ができています。水分摂取状況もペットボトルを利用して朝、夕と不足がおこらないよう確認して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花を飾ったり、掲示物で生活感、季節感をとりいれるように努めている。	○	日常生活の動作が低下するにあたってエレベーターなどの対策の検討が期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやたんすの上に入居者の好きなものが飾ってあったり、壁に写真が貼ってある。また、視力障害の入居者の方には本人や家族と相談し、危険の回避や自立支援のできるように暮らしやすい家具の位置変更をしたり、危険箇所にカバーをするなど工夫がされている。		

※  は、重点項目。